

高校生の孤独感に関する研究

—孤独感とアサーション，両親の養育態度，学校ストレスとの関連性—

金子 智栄子*・平宮 正志**

Abstract

The purpose of this study is to examine the relationship between loneliness and assertion, parents' attitudes, and school stress.

Two hundred and forty-seven high school students (97 males and 150 females) in second grade were examined. It was found that loneliness is related not only to self-disclosure in assertion, but also to feelings of stress in regard to their friends. Lonely students are not self-disclosing and they tend to have feelings of stress in regard to their friends. Especially male students who are not accepted by their fathers feel loneliness more strongly.

Key Words : loneliness, assertion, parents' attitudes, high school stress

[問題と目的]

稲村博（1986）は思春期・青年期の悩みの背景には共通して強い孤独感があり，自殺や抑うつなどの非社会的行動だけでなく，非行・家出・性的問題などの反社会的行動とも密接に関連していることを示している。孤独感は無力な希望のなさ，言いようのない空虚さによって特徴づけられるが，孤独感は個人の心理的適応にとっては大きな問題のひとつと考えられる。

保坂亨（1996）は，青年期の友人関係は異質性を認め合って自立した個人として互いに尊重

A Study on the Feeling of Loneliness among High School Students

—The Relationship between Loneliness and Assertion, Parents' Attitudes, and School Stress—

*Chieko Kaneko **Masashi Hiramaya (文教大学)

Correspondence Address : Faculty of Human Studies, Bunkyo Gakuin University,
196 Kamekubo, Oimachi, Iruma-Gun, Saitama 356-8533, Japan.

Accepted October 10, 2002. Published December 20, 2002.

し合う状態が生まれる段階にあるとしながらも、心理的に未熟な青年たちは他者との違いをはっきりと表現できないという問題点をあげている。つまり、他者との違いを言うこと、あるいは言われることが攻撃と同じ意味にあたり、心理的な自立に伴う自己表現（アサーション）ができないことを指摘している。実際に高校生の心理相談を行っているところ、友達に遠慮しすぎて自己表現ができなかったり、グループで常に行動して一見仲が良さそうに見えても本音が語れずに孤独感を増している生徒が多く、お互いの個性や異質性を理解しながら、相互に尊重しうる質的に良好な友人関係が形成されていないという実感を持つことが多い。

対人関係の不適応を解消し、より健全な対人関係を形成していくために注目されている概念に、「アサーション」がある。平木典子（1993）は「アサーション」を相互尊重の自己表現とし、「アサーティブ」を「自分の人権としての言論の自由のみならず、同時に相手の自由も尊重する態度」としている。自分をいかに表現するだけでなく、他者の表現をも受けとめ理解しようとする姿勢は、親密な友人関係を形成する土台となるだけでなく、対人関係の広がりという意味すると考えられる。そこで、孤独感が生じる一因として、アサーティブでないことが大きな要因となっていると考えられる。

工藤力ら（1983）は、孤独感とは人の社会的関係のネットワークがその人の願望よりも小さく心理的な満足を低下させる時に生起するという立場をとり、Russel, D.ら（1980）によって作成された孤独感尺度を翻訳して、青年を対象に孤独感と家族との愛情関係を分析した。孤独感の強い人は父母との関係を不愉快で疎遠な冷たいものと考えており、両親に不信感を抱き自分を突き離れた存在としてとらえる傾向がみられたことを報告している。筆者らの実際の面接場面でも、現在の両親との関係がうまくいかずに情緒的サポートが得られないことで孤独感を訴える生徒も多い。確かに、両親との関係が良好な円満な家庭内では外部社会にいる時のような気取った態度を必要とせず、親密な対人関係を体験できることから孤独感は薄らぐと考えられる。また、たとえ友人関係で孤独感を感じていても、両親との関係が良好で情緒的サポートが得られる時は、孤独感から救われる状況が生じていることもある。

平成9年度中に全国の公・私立高等学校（全日制課程、定時制課程）を中途退学した生徒（111,491人）に関する文部省の調査では、中退理由は「進路変更」による者が40.8%で最も多く、次いで「学校生活・学業不適応」によるものが33.4%、「学業不振」が7.1%の順になっており、昭和61年度以来同様の順位であった。「学校生活・学業不適応」の内訳についてみると「もともと高校生活に熱意がない」が43.9%、「授業に興味がない」が18.4%、「人間関係がうまく保てない」が14.8%、「学校の雰囲気合わない」が10.5%だった（文部省、1998）。さらに、鹿児島大学第一内科外来を受診した登校拒否・不登校の患者156人の臨床報告では、発症契機の約90%が「入学・新学年・転校後の適応不全」「成績の低下」「友人・教師とのトラブル」「いじめ」「クラブ・生徒会活動の気疲れ」などの学校生活に関わる出来事で占められていた（野添新一ら、1990）。学校生活での様々なストレスは、生徒の孤独感とも関連していると考えられる。たとえば、学校内での友人や教師との疎遠な関係、学業での無気力や部活動で

の不満足感などは孤独感と関連すると考える。

そこで本研究では、筆者らの日常の面接経験から得られた見解を検証すべく高校生の孤独感とアサーション、両親の養育態度、学校ストレスとの関連性を検討することにした。

[方法]

〈調査時期〉 1999年7月

〈調査対象〉 富山市内の公立の全日制普通科高等学校1校2年生7クラス247名（男97名，女150名）。無記名でマークシートにて回答させた。なお，アンケートの配付・回収は担任教師が行った。

〈調査内容〉

1) 孤独感

Russelら（1980）によって作成され，工藤ら（1983）が邦訳した改訂版 UCLA 孤独感尺度から5項目を用いた。「良く感じる（4）～全く感じない（1）」の4段階で評定させた。

2) アサーション

菅沼憲治（1989）が作成したアサーティブ・チェックリストの権利主張，自己信頼，自己開示，受容性，断る力，対決の6下位尺度について各3項目を用いた。「かなりそうである（4）～全くそうでない（1）」の4段階で評定させた。

3) 両親の養育態度

東京都生活文化局（1982）が Symonds, P.M. (1939) の理論に従って作成した尺度から，受容，干渉の2下位尺度について各2項目を用いた。「全くそう思う（4）～全くそう思わない（1）」の4段階で評定させた。

4) 学校ストレス

菅徹ら（1996）が作成した尺度を用いた。学業進路，校則・規則，教師との関係，友人との関係，部活動の5下位尺度について各々4あるいは3項目を用いて，過去数カ月間の経験の程度をたずねた。評定は「非常にいやだった（4）～全然いやでなかった（1）」の4段階を用いた。項目内容については表1を参照されたい。

[結果と考察]

女子150名からランダムに98名を抽出して，男子97名とあわせて195名を全体とした。アサーティブ・チェックリストの下位尺度の総和をアサーションとした。

表1-1 平均値と標準偏差

項目内容	男子			性差	女子			全体		
	N	M	SD		N	M	SD	N	M	SD
1) 孤独感	95	1.70	.70	>+	145	1.53	.58	189	1.58	.62
①私には頼りにできる人が誰もいない。	96	1.85	.86	>*	147	1.61	.70	191	1.72	.61
②私は今、誰とも親しくしていない。	97	1.44	.75	>+	149	1.30	.63	194	1.36	.44
③私をよく知っている人は誰もいない。	96	1.81	.89	>*	149	1.57	.77	193	1.62	.64
④私は他の人たちから孤立している。	97	1.73	.90		149	1.62	.79	194	1.68	.69
⑤私には知人がいるが、気心の知れた人はいない。	97	1.73	.85	>+	147	1.53	.76	193	1.61	.61
2) アサーション	92	2.71	.34		187	2.72	.36	187	2.70	.35
(1) 権利主張	96	2.81	.61		150	2.72	.52	194	2.78	.55
①私は欠陥商品を買わされたことに気づいたら、店にそれを返す。	97	2.90	.92		150	2.72	.79	195	2.83	.71
②私は相手が理不尽な要求をしてきた時、それに抵抗を示す。	97	3.23	.76	>*	150	3.05	.64	195	3.12	.50
③私はもし店員が商品を見せるのにかなり手間をかけるようであったら「けっこうです」と言うことができる。	96	2.40	1.00		150	2.48	.79	194	2.47	.77
(2) 自己信頼	97	2.55	.58	>+	149	2.41	.58	194	2.46	.59
①私は大勢の前で気軽に大きな声で話すことができる。	97	2.41	.83		149	2.42	.86	194	2.40	.74
②私は年輩でまわりから尊敬されている人の意見でも、強く反対できる時は自分の考えをはっきりと言う。	97	2.54	.80	>*	150	2.33	.77	195	2.39	.61
③私は誰かとある話題について討議し、彼らと意見が異なる際、彼らにその相違点をはっきりと主張する。	97	2.76	.83	>+	150	2.57	.76	195	2.67	.66
(3) 自己開示	95	2.88	.56	<**	147	3.14	.58	191	3.00	.59
①私は親しくなりたい人に率先して働きかける。	97	2.54	.71	<+	150	2.72	.77	195	2.62	.57
②私は何でも話し合える親友がいる。	95	3.06	.84	<**	147	3.40	.84	191	3.22	.70
③私は必要とあらば、他人に助けを求めることができる。	97	3.16	.78	<*	150	3.39	.76	195	3.24	.62
(4) 受容性	96	2.59	.58	<**	150	2.80	.46	194	2.67	.52
①私は誰かが私を批判した時に、言いわけなどしないで素直に批判に耳を傾ける。	97	2.52	.71	<*	150	2.69	.68	195	2.57	.48
②私は自分の行為に対していかなる場合でも責任がとれる。	97	2.58	.78		150	2.62	.67	195	2.59	.52
③私は他人の感情を傷つけないようにいつも細心の注意を払う。	96	2.75	.80	<**	150	3.16	.69	194	2.95	.58
(5) 断る力	97	2.59	.66		150	2.61	.59	195	2.56	.63
①私は自分を頼りなく感じた時、自分の良さを認め、出来るだけ安定した行動をするように努める。	97	2.63	.91	>*	150	2.41	.78	195	2.45	.71
②私は友人に他の人と一緒に招かれ、本当は行きたくない時、その招きを断る。	97	2.73	.82		150	2.90	.86	195	2.79	.75
③私は友人が電話をかけてきて、あまりにもながびくような時、要領よく会話を打ち切ることができる。	97	2.49	.99		150	2.59	.88	195	2.52	.86
(6) 対決	96	2.70	.56		150	2.68	.66	194	2.66	.60
①私は友人が私の信頼を裏切った時、私はその人に私がどう感じているかを伝える。	97	2.24	.80	<**	150	2.53	.85	195	2.35	.64
②私は不公平に扱われたら異議をとなえる。	97	2.84	.72		150	2.69	.82	195	2.75	.58
③私は誰かにいやなことをされた時、やめてくれるように頼む。	96	3.09	.78	>+	150	2.90	.80	194	2.96	.65

表 1—2 平均値と標準偏差

項目内容	男子			性差	女子			全体		
	N	M	SD		N	M	SD	N	M	SD
3) 養育態度										
(1) 父親・受容	95	2.98	.79		150	3.12	.76	193	3.03	.77
①父は私に対してあたたかい。	96	3.13	.82	< **	150	3.40	.77	194	3.25	.65
②父は私の気持ちをわかろうとしている。	95	2.83	.90		150	2.84	.93	193	2.82	.82
(2) 父親・干渉	94	2.22	.90		147	2.32	.90	189	2.27	.89
①父は何かにつけて私の行動に口をはさむ。	95	2.39	.99		148	2.32	.98	191	2.36	.94
②父は何かにつけて自分の考えを押し付けようとしている。	94	2.07	1.02	< +	148	2.32	1.03	190	2.19	1.03
(3) 母親・受容	97	3.07	.71	< **	150	3.38	.70	195	3.20	.72
①母は私に対してあたたかい。	97	3.21	.79	< **	150	3.57	.71	195	3.35	.61
②母は私の気持ちをわかろうとしている。	97	2.94	.79	< *	150	3.19	.87	195	3.05	.69
(4) 母親・干渉	95	2.32	.79		149	2.36	.84	192	2.37	.82
①母は何かにつけて私の行動に口をはさむ。	97	2.59	.92		149	2.54	.97	194	2.60	.88
②母は何かにつけて自分の考えを押し付けようとしている。	95	2.05	.90		149	2.17	.93	192	2.13	.86
4) 学校ストレス										
(1) 学業進路	97	2.89	.65	< *	149	3.08	.62	194	3.02	.61
①気だけあせて、勉強に集中できなかったこと。	97	2.88	1.06		150	3.07	.98	195	3.02	1.01
②試験や成績のことが気になったこと。	97	3.22	.88	< +	150	3.40	.80	195	3.35	.67
③授業内容が、よくわからなかったこと。	97	3.12	.79		150	3.26	.73	195	3.21	.58
④自分が希望する学校(会社)に合格できるか、不安になったこと。	97	2.35	1.13		149	2.58	1.05	194	2.51	1.20
(2) 校則・規則	96	2.06	.86	< *	149	2.30	.71	193	2.18	.80
①校則が厳しく、規制してあること。	97	2.07	1.06	< **	150	2.41	.89	195	2.25	.98
②服装についての規制が厳しいこと。	97	2.13	1.04	< **	150	2.56	.89	195	2.35	.96
③校門指導などの学校内での規制。	97	2.20	1.04		149	2.40	.92	194	2.28	.97
④体育服など学校指定のものを使わなければならなかったこと。	96	1.78	.95		150	1.82	.85	194	1.83	.82
(3) 教師との関係	97	2.27	.77		148	2.18	.73	193	2.24	.75
①先生に偉そうにされたこと。	97	2.27	1.04		148	2.26	.89	193	2.26	.92
②先生にうるさく注意されたこと。	97	2.27	1.04	> +	150	2.03	.97	195	2.15	.99
③先生の気分によって、生徒に対する態度が変わったこと。	97	2.56	.92		150	2.57	.93	195	2.57	.83
④試験の成績が悪かった時など先生に勉強していないと決めつけられたこと。	97	1.99	.95		150	1.87	.94	195	1.97	.89
(4) 友人との関係	92	1.96	.66		150	2.01	.61	190	2.01	.62
①友だちに自分の思っていることや考えを伝えられなかったこと。	97	2.42	.96		150	2.55	.83	195	2.50	.79
②友だちに自分の思いとは違うことを言われたこと。	95	2.37	.92		150	2.41	.89	193	2.43	.76
③友だちに無視されたり、相手にされなかったりしたこと。	96	1.62	.79		150	1.50	.82	194	1.57	.65
④友だちとけんかしたこと。	95	1.48	.78		150	1.59	.87	193	1.55	.68
(5) 部活動	92	2.22	1.07		142	2.02	1.10	183	2.10	1.09
①部活動で休日も休みにならない日があったこと。	93	2.28	1.30		147	2.06	1.24	188	2.16	1.62
②部活動で帰りが遅くなったこと。	93	2.61	1.35	> *	144	2.21	1.27	186	2.39	1.77
③用事があって部活動を休みたい日があっても、休みづらかったこと。	93	1.87	1.09		143	1.85	1.14	185	1.86	1.25

(**.....p<.01, *.....p<.05, +.....p<.10)

1. 平均値と標準偏差

1項目あたりの平均値と標準偏差、並びに性差を表1に示す。

1) 孤独感

孤独感の平均値は男女共に低いが、 $p < .10$ で男子の方が女子よりも有意に高くなっている。項目においては「私には頼りにできる人が誰もいない」「私をよく知っている人は誰もいない」が男子の方が有意に高く、「私は今、誰とも親しくしていない」「私には知人がいるが、気心の知れた人はいない」は統計的に有意とはいえないが男子の方が高い傾向にある。

2) アサーティブ・チェックリスト

『自己開示』の平均値は男女共に最も高いが、女子の方が男子よりも高い。項目では「私は何でも話し合える親友がいる」「私は必要とあらば、他人に助けを求めることができる」が女子の方が有意に高く、「私は親しくなりたい人に率先して働きかける」が統計的に有意とはいえないが高い傾向にある。

『受容性』は女子の方が男子よりも有意に高い。項目では「私は誰かが私を批判した時に、言いわけなどしないで素直に批判に耳を傾ける」「私は他人の感情を傷つけないようにいつも細心の注意をはらう」が有意に高くなっている。

『自己信頼』は $p < .10$ で男子の方が女子よりも有意に高くなっている。項目では「私は年輩でまわりから尊敬されている人の意見でも、強く反対できる時は自分の考えをはっきりと言う」は有意に高く、「私は誰かとある話題について討議し、彼らと意見が異なる際、彼らにその相違点をはっきりと主張する」は統計的に有意とはいえないが高い傾向にある。

その他、『権利主張』の項目の「私は相手が理不尽な要求をしてきた時、それに抵抗を示す」、『断る力』の項目の「私は自分を頼りなく感じた時、自分の良さを認め、出来るだけ安定した行動をするように努める」は男子の方が有意に高く、『対決』の項目の「私は友人が私の信頼を裏切った時、私はその人に私がどう感じているかを伝える」は女子の方が高い。

3) 両親の養育態度

母親の『受容』の平均値は女子の方が男子よりも有意に高い。項目では「母は私に対してあたたかい」「母は私の気持ちをわかろうとしている」が有意に高い。父親の『受容』の項目では「父は私に対してあたたかい」も女子の方が有意に高い。

4) 学校ストレス

『学業進路』の平均値は男女共に相対的に高い。性差があり、女子の方が有意に高く、「試験や成績のことが気になったこと」の項目は、統計的に有意とはいえないが女子の方が高い傾向にある。

『校則・規則』も女子の方が有意に高く、「校則が厳しく、規制してあること」「服装につい

での規制が厳しいこと」の2項目が有意に高くなっている。

『部活動』の項目は標準偏差が大きく、個人差が激しいことがうかがわれる。「部活動で帰りが遅くなったこと」は男子の方が女子よりも有意に高い。

女子の方が男子よりも孤独感が低い傾向にあり、自己開示が高く本音で話し、受容性が高く自分で責任を引き受けられる前向きな傾向があると考えられる。男子は自己信頼が高く、女子よりも自分に自信をもっていると考えられる。また、女子の方が男子よりも母親からの受容度が高くなっている。学校ストレスは『学業』が最も高いが、これも性差があり、女子の方が高い。さらに、『校則』も女子の方が高く、女子の方がストレスが高いことがうかがえる。

学校でのストレスは女子の方が強いものの、女子の方が自己開示が高いなどアサーティブな側面があり、母親の受容といった情緒的サポートにも恵まれているため、孤独感も低くなるのかもしれない。

表 2 孤独感とのピアソンの相関係数

N	アサーティブ・チェックリスト							親の養育態度				学校ストレス				
	権利主張	自己信頼	自己開示	受容性	断る力	対決	アサーション	父受容	親干渉	母受容	親干渉	学業	校則	教師	友人	部活
男子 97	-.03	.07	-.30**	-.10	.05	-.04	.01	-.33**	.28**	-.23*	.22*	.11	-.11	.14	.42**	.04
女子 150	-.13	-.19*	-.51**	-.01	-.08	-.31**	-.34**	-.19*	.16+	-.01	-.04	-.05	-.02	.17*	.28**	-.02
全体 195	-.08	-.06	-.43**	.02	.01	-.19**	-.18*	-.30**	.24**	-.16*	.09	.03	-.15*	.16*	.34**	.05

(**...p<.01, *...p<.05, +...p<.10)

2. 相関分析

孤独感とのピアソンの相関係数を算出した。表2より、全体では、「孤独感」はアサーティブ・チェックリストの『自己開示』『対決』『アサーション』、両親の『受容』、学校ストレスの『校則』と負の有意な相関があり、父親の『干渉』、ストレスの『教師』『友人』と正の相関がある。男子では、「孤独感」はアサーティブの『自己開示』、両親の『受容』と負の有意な相関があり、両親の『干渉』、ストレスの『友人』と正の相関がある。女子では、アサーティブの『自己信頼』『自己開示』『対決』『アサーション』、父親の『受容』と負の相関があり、ストレスの『教師』『友人』と正の相関がある。

一般的に、孤独感が高いほど、アサーションが低くお互いを尊重するような自己表現ができにくく、自己開示ができずに建前の話しが多く、対立場面でさわやかに自分の感情を表現できない。さらに、両親から受容されず、特に父親から干渉されており、学校でも教師や友人との関係にストレスを感じていることがわかる。性差があり、男子生徒の場合は孤独感が高いほど両親に受け止められずに干渉されている傾向があるが、女子生徒の場合は、アサーティブでなく対立場面で自分の感情を上手に表現できず、教師との関係にストレスを感じている傾向がある。

表3 重相関係数と偏相関係数

N	重相関係数	偏相関係数												定数			
		アサーティブ・チェックリスト						親の養育態度				学校ストレス					
		権利主張	自己信頼	自己開示	受容性	断る力	対決	父受容	親干渉	母受容	親干渉	学業	校則		教師	友人	部活
男子 77	.66**	-.08	.27**	-.32**	.35**	.08	-.10	-.26*	.03	.15	.10	-.02	-.17	-.05	.36**	-.03	1.15
女子 132	.60**	-.02	-.09	-.32**	.14	.05	-.18†	-.04	.06	.06	-.03	-.07	-.05	.15†	.32**	-.04	1.85
全体 160	.59**	-.02	.06	-.31**	.23**	.06	-.15†	-.12	.07	.07	.01	-.04	-.20*	.11	.34**	-.04	1.55

(**…p<.01, *…p<.05, †…p<.10)

3. 重回帰分析

孤独感を従属変数とし、『アサーション』を除く他の尺度を独立変数として重回帰分析を行った（表3）。重相関係数は、全体・男子・女子のすべてで有意となり、選択された独立変数が孤独感への影響を予測できることがわかった。

全体では、「孤独感」はアサーティブの『自己開示』、学校ストレスの『校則』と負の有意な偏相関があり、アサーティブの『受容性』、ストレスの『友人』と正の偏相関がある。男子では、アサーティブの『自己開示』、父親の『受容』と負の偏相関があり、アサーティブの『自己信頼』『受容性』、ストレスの『友人』と正の偏相関がある。女子では、アサーティブの『自己開示』と負の偏相関があり、ストレスの『友人』と正の偏相関がある。

一般的に、自己開示できずに本音で話せず友人関係にストレスを感じていると、孤独感が高くなる。特に男子生徒の場合は父親から受容されていないと孤独感が高まると考えられる。

[吟味]

孤独感とアサーションと関連していたが、その中でも男・女・全体ともに自己開示と強い負の相関及び偏相関がみられた。また、孤独感と学校ストレスとも関連しており、男・女・全体ともに友人関係のストレスが大きな影響を与えていた。建前でなく本音で話しあえる親密な友人関係の形成が、孤独感克服の大きな鍵となると考えられる。両親の養育態度もまた孤独感と関連していたが、特にその影響は男子生徒に大きかった。さらに、男女共に父親からの家庭的な心理的サポートの重要性が示唆されたと考えられる。女子生徒では教師関係のストレスが高いと孤独を感じる傾向がみられ、教師生徒関係への配慮の必要性が示されたと考えられる。

ただし、孤独感と校則へのストレスと負の相関及び偏相関があった。孤独感と友人や教師などの対人関係への意識との関連が強く、校則や規則に対する反発とはあまり関連しないのかもしれない。

孤独感とアサーティブの『自己信頼』『受容性』に正の偏相関がみられた。自分の考えをしっかり持ち堂々と発言する自己信頼感をもつ生徒は、他者と意見が対立しやすく、他の生徒からは敬遠されるのかもしれない。柴橋祐子（1998）は相互関係の中での主張的なあり方がアサーションとされるが、現在の主張性尺度では他者の主張性を認めない一方的な主張であるかど

うかという質的な違いまで明らかにできず、それが攻撃性との分離を困難にしているとしている。アサーションは個人が尊重され、自己主張が強調されるアメリカという文化的背景の中から登場した理論である。「出る釘は打たれる」という諺があるように、集団の和が重んじられる日本文化には受け入れられない面があると考えられる。また、相手の感情を傷つけないように細心の注意を払い、いかなる場合も責任を取るような受容的な生徒は、責任を一人で負いやすく他の生徒からの援助が得られず孤立する傾向があるのかもしれない。いずれにしても、アサーティブな側面が孤独感を高めることもあると考えながら、今後、詳細な分析が必要になると考えられる。

[引用・参考文献]

- 平木典子 1993 アサーション・トレーニング 日本精神技術研究所
- 保坂亨 1996 児童期から思春期・青年期における友人関係の発達と「いじめ」 千葉大学教育実践研究, 3 1-9.
- 稲村博 1986 思春期の心のカルテ 国土社
- 菅徹・上地安昭 1996 高校生の心理・社会的ストレスに関する一考察 カウンセリング研究, 29 197-207.
- 工藤力・西川正之 1983 孤独感に関する研究 (I) —孤独感尺度の信頼性・妥当性の研究 実験社会心理学研究, 22 99-108.
- 工藤力 1986 思春期の孤独感に関する研究 心理学研究, 57 293-299.
- 文部省 1998 公・私立高等学校における中途退学者等の状況 (平成9年度)
- 野添新一・古賀靖之 1990 登校拒否・不登校の原因をさぐる 坂野雄二編 メンタル・ヘルスシリーズ登校拒否・不登校 同朋社 37-72.
- ペプロー,L.A. & パールマン,D. 加藤義明訳 1988 孤独感に関する展望 加藤義明監訳 孤独感の心理学 誠信書房 1-23. (Peplau,L.A. & Perlman, D. 1982 Loneliness: A sourcebook of current theory, research and therapy. New York: John Wiley & Son.)
- Russel,D., Peplau,L.A. & Cutrona,C.E. 1980 The revised UCLA Loneliness Scale: Concurrent and discriminant validity evidence. *Journal of Personality and Social Psychology*,39 472-480.
- 柴橋祐子 1998 思春期の友人関係におけるアサーション能力育成の意義と主張性尺度研究の課題について カウンセリング研究, 31 19-26.
- 菅沼憲治 1989 アサーティブ=チェックリスト 青年心理 75 金子書房 94-96.
- Symonds,P.M. 1939 *The psychology of parent-child relationship*. Appleton Century Crofts.
- 詫磨武俊 1984 パーソナリティの発達と家族関係 日本心理学研究会 家族心理学年報2, 3-23.
- 東京都生活文化局 1982 東京都青少年問題調査報告書 大都市高校生の性をめぐる意識と行動—その実態と生活環境・心理的特徴などとの関連— 東京都生活文化局発行